

短期的「社会資源」

- ・ 相談員 ボランティア 対応 → 各事業所の対応を統一化
- ・ サービス提供事業所の不足 → 本当に必要な利用者がどうかを見定める
 - ・ サービスの目的を誤認している利用者が多い

長期的「事業所の課題」

- ・ 相談員の
人材不足 → 相談員の業務の相談が足りない。
(1人の事業所は特に)
↳ 事業所どうしのつながりを強める
(話すだけでストレス発散)

部会ではほしい事
事例検討のその後の経過も報告してほしい。

Bグループ

「すぐに取り掛かるべきもの」

避難計画に基づきリハーサル・訓練を試みる (発生前)

- ・ 地域の避難所の場所・ルート
- ・ 本人が必要な情報を持っていること、準備していることが大切
- ・ インフラの確認 (発生後) 地域のオの支援はあるか?
近隣... グループLINEで
- ・ 事業所のBCP - アップデート必要
- ・ 食事の確保

「長期的に改善すべきもの」

相談事業所が知らないところで家族や福祉事業所との話が進んでいるときがある

- ・ 児童・保護者ネットワーク強く 事業所をすでに決めていることもある
- ・ 連携先が多い... 本人が一番信頼している支援者 → 発信 → 最終的に情報共有できることが理想
- ・ 相談員の役割を説明する
- ・ 成功事例の共有 (関係者の多い会議など)
- ・ 高齢福祉・ケアマネの情報集約・担当者会議 → 障がい福祉も
- ・ 本人と相談員との関係性
 - ↳ 質の問題・時間・参加者...
 - ・ ソートを活用しても良いのでは?
 - ・ 参加者が多い場合は事前準備必要?
 - ・ 記録の共有はしているか?

Gグループ

社会資源

- 不登校児の居場所がほしい
- 日中一時支援の手帳を待たないでほしいと利用できない

連携

- 保育所等訪問支援への理解が乏しい
- 会議が多すぎる、学校で支援もしいろと言われない
- 学校と支援者との視点の違いが大きい
- くり返し話し合いで理解をへす

事業所の課題

- ひとり相談員が抱えるケースが多すぎて対応が乱雑になっている
- 相談する人がいろいろから行政に聞いたり相談したり、関係者に相談したり
- なにも事例がない

収容

- BcDの勉強会が始まったが、実際に行動できずが不安
- 2019年にBcDをしいても、実際の対応で何か必要なのかなどを確認する必要を感じた
- 事例を降付をして、押しつける必要がある
- 部会でもとりあげてもらった

D グループ

○ 社会資源

- ・短期 ... ヘルパーが足りてない。
- ・長期 ... 県と市で取り扱いに差。

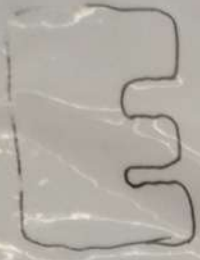
○ 連携

- ・短期 ... 受給者証の通知。
- ・長期 ... 放デイ終了時のつながり。

○ 事業所の課題

- ・短期 ... 月ごとに処理件数が違う
- ・長期 ... 少人数事業所

- ## ○ 災害
- ・短期 ... 大規模災害
 - ・長期 ... 近隣との関わり



グループ

- ☆ 社会資源
 - 放課・見送りで重度の児童を受け入れてもらえない。(こども部会へ情報共有)
 - お預かり目的のサービスが必要
（児童） （ス留米市は増えている）
 - 地域活動センターが必要
 - ヘルパー事業所が減ってきている
- ☆ 事業所の課題
 - 協働の体制をとっていく。
- ☆ 災害
 - 横のつながり（福祉だけでなく）を築く
- ☆ その他
 - 介入が難しい人は関係性ができる人を中心に支援をする

移動支援がもと使えるようにしてほしい。

- アセスメントを行う所（役所、相談事業所、サビ事業所等）でそれぞれ同じ事を何度もきかせる → 一つの書式に記入できるようなものを作る
（鳥栖、三養基で統一）